

特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター ニュースレター

KFC News

Kobe Foreigners Friendship Center NEWS LETTER

2023. 1. 17

No. 172

法人本部 〒653-0038 神戸市長田区若松町 4-4-10 アスタクエスタ北棟 502

TEL : 078-612-2402 FAX : 078-612-3052 E-mail kfc@social-b.net

デイサービスセンター ハナの会 TEL / FAX : 078-612-2408

グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ TEL : 078-798-5475・4 FAX : 078-798-5476

ハナ介護サービス TEL : (居宅) 078-646-8671 (訪問) 078-646-8670 FAX : 078-612-3052

ふたば国際プラザ TEL : 078-747-0280 FAX : 078-747-0290

新年あけましておめでとうございます。

セヘ ポッ マニ パドゥプシヨ (新年の福をたくさんうけとってください)。

昨年はコロナウィルス禍が、収束しない中、ともすれば内向きな思考、行動になりがちな状況にあっても、KFCでは会員、スタッフ、ステークホルダーの努力、協力によって困難を抱える子どもから高齢者までの支援活動を立ち止まることなく進めました。

多くの成果を得ていますが、一方で「外国人」、「外人」と定義される人々への理不尽な対応、日々の中でほぼしている側が意識もせず繰り返されるマイクロアグレッションと呼ばれる少数者への傷つけにも接します。歴史は、不安(ある種の恐怖といえるかもしれません)が、広がっていくと社会は閉鎖的になり、異なると考える(そのほとんどは実は妄想ですが)人々への攻撃や排斥を繰り返してきました。

ウクライナで起きていること、日本の中で起きているヘイトスピーチ・ヘイトクライムも同じ根を持っているように考えます。その根は、日々の中で繰り返される主流者中心の構造、少数者の軽視からはじまっていると考えます。

KFCは、日常の中で人権の視点を基底に据え、他者と「共に学び、共に育ち、共に創る」営みを進め、愚かな不安が生み出す分断や排除ではなく「共に生きる」社会を支えていきたいと思えます。

今年もよろしく願いいたします。

(金 宣 吉)

理事からの新年の挨拶

皆さん、明けましておめでとうございます。セヘポックマニバドウセヨ。

3年続きのコロナ禍の中、KFCの諸事業すべてがそうですが、中でも介護事業のスタッフの皆さんは大変な苦境の中、利用者のためにしっかりと頑張っておられました。本当に感謝です。今年こそ、少しは落ち着いて事業を進めて行ければと心から願っております。

(李 圭 燮)

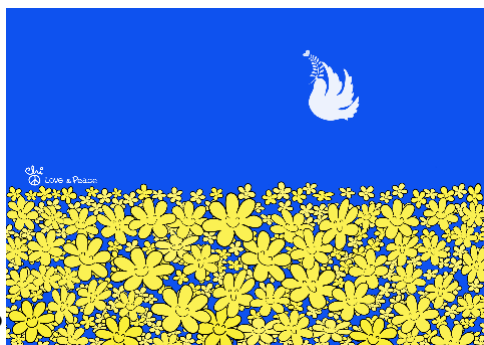
あけまして、おめでとうございます。

昨年も日々の子育てにおわれて、理事会にはなかなか参加できませんでしたが、ウクライナ難民支援の学習会に生徒と参加し、また家族で10月のランタン縁日や12月のチャリティー・コンサートに参加しました。この縁日で、2歳の娘は生まれて初めてスーパーボールすくいに挑戦しました。一昨年の縁日の時はまだ7ヶ月の赤ちゃんで、わたしに抱かれていただけだったので、その成長を感じました。娘とともにKFCの催しがこれからも大きく育っていくことを願っています。

今年もよろしくお願いします。(片田 孫 朝日)

明けましておめでとうございます。最近嬉しかったことは、5年前に書いた「異文化接触と自尊感情－少年期の危機をどう乗り越えるか」という短い文章(宮島喬ほか編著『外国人の子ども白書』明石書店、2017年)が、某国立大学の「本番レベル模試」の小論文問題に採用されたことです。これを受験した約1,800人の受験生は、外国にルーツをもつ児童生徒の葛藤というテーマについて、どう考えたのか興味深々です。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

(野崎 志帆)



Chisako

Nagatomo

新年おめでとうございます。2022年度は国際的にはウクライナでの戦争、国内では政治家や学者に対する襲撃事件がありました。また、年末には軍事費の大幅な拡大が閣議決定される等、国内外で緊張感が高まりつつあるように思います。今日一日を穏やかに暮らせることのありがたさを噛みしめつつ、遠くから来た人々に対して開かれた社会を維持するための活動を継続していきたいと思っています。本年もよろしくお祈り申し上げます。

(樋口 大祐)

あけましておめでとうございます。

三年前、『地球爆ぜ、自粛の日々 宇宙笑う』という句を詠みました。私としては気に入っていましたが、票にはつながりませんでした。(みんなの投票でランクを付ける)

六十代の時、風を感じました。その風に押されて十年が過ぎました。

昨年春『在宅外国人高齢者の在宅療養と看取り事例集』を出し、秋に『チャオ・カック・バン(みなさんこんにちは)』10年分のインタビューを冊子にして発行しました。

今年、七十の風が吹いてきていることを予感します。風に乗って、新たな出会いやチャンスに挑戦したいと思います。

(山根 香代子)

あけましておめでとうございます。昨年も新型コロナウイルスの感染拡大が続き、年末には第8波と感染の拡大が止まらない事態が続いてきました。景気の後退による失業、破産の増加など出口が見えない状況が続いています。また、政府は昨年廃案になった入管法改正案を再度提出する動きがあります。法案は、根源的な課題とする難民認定率の低さ、国際人権法を無視した退去強制・送還、長期収容といった問題の根本的解決を回避し、そればかりか、難民申請中の当事者の送還執行の一部解禁や、退去強制令書による送還に応じない当事者への罰則創設など、外国籍者等の基本的人権の保障に逆行する制度改正を多く含むものであり、断固阻止しなければなりません。厳しい状況の中、これからも定住外国人の権利擁護のために、KFCの活動に貢献できるようがんばります。今年もよろしくお願いいたします。(吉井 正明)

日本語プロジェクト

◆ 桜 ふたば学舎「まちの文化祭 2022」に参加しました 桜

「まちの文化祭」はふたば学舎主催で教室展示やワークショップ、舞台、屋台などに多くの地域団体が参加して毎年開催されているものです。今年は11月27日曜日。暖かな絶好のお祭り日和で、主催者によると今年の来場者数は延べ3000人とのことでした。

KFC日本語教室では日曜日の学習者支援者を中心として、屋台で世界の料理を販売しました。また教室では木曜日夜のカナダ人学習者と支援者が、「共生社会の実現に向けて - カナダのダイバーシティについて - 」というテーマで話をしてくれました。

2年前の文化祭ではベトナムのバインミーと台湾の煮卵を作って好評のうちに完売。昨年は、古着や小物のバザーと世界各国のお菓子、焼き芋を屋台で販売し、教室では学習者のスピーチ会をしました。

そして今年。アフガニスタンのショルワとナン、ピリヤニ、ネパールのチキンカレーとロティ、ベトナムのアボカドジュース、香港のレモンティを販売しました。調理は各国の学習者が担当してくれました。文

化祭当日を迎えるまでに試作の日を設け、どんな容器がいいか、大きさは、入れる量は、値段は…と話し合っていて決めていきました。支援者が効果的なチラシも作ってくれました。

当日は朝から「売れるかしら」とドキドキしながらお客さんを待ちましたが、どれも好評で午後2時すぎには完売となり、お客様からは「おいしいし量も多くて安い」「店の人が丁寧に説明してくれて親切だった」との声もいただきました。

終了後、学習者は「日本のお祭りに参加できてよかった」「とても楽しかった」と話してくれました。今回良かったことは、学習者のみなさんが調理し販売し主体的に行事に参加できたことだと思います。

反省点としては、役割分担、物品の個数や置き場の明確化、屋台ディスプレイや会計手順などいろいろありましたが、これを次回に活かし来年もみんなで力を合わせて楽しみたいと思います。

(岡本 道代)

◆はいず近況

KFCのMOIの分室としてスタートした賀川記念館でのはいずも、今年10年を迎えました。最初は子どもたち2人と、保護者の日本語支援を3人のボランティアで始めました。少しずつ増え、今は6人の保護者、20人近くの子どものと、多くの支援者の方に支えられ、週2回続けてきています。来日から2、3年と経つと、日本語そのものより、国語や社会の学習の支援が主になっています。また、はいず開始当初から来ている子どもは高校1年生になり、高校の学習や漢字検定、英語検定の学習を支援しています。中学生も登校できにくい状況も抱え、必要な学習の支援を進めています。子どもの居場所としてのはいずにもなってきました。また、保護者は、日本語能力検定を受けて働きたいという方や、子どもの学習を見たい、子どもと話したいという方もいらっしゃいます。少しでも力になればと思います。

コロナ禍で新しく日本にくる子どもがストップしていましたが、この夏には4人きました。学習支援だけでなく、ひらがな、カタカナからの日本語の支援が必要になっています。また、中国からの子どもが多く、中国人留学生の方や中国語が話せる方が貴重になっています。はいずが発足した年の秋に来てくれた神戸大学院生の方からの呼びかけが、今まで続いているのもありがたいことです。

日本語がまだわからない子どもへの支援の体制が神戸市も少しずつ制度化されてきました。学校での取り出しの日本語教室や多文化共生サポーターの教室内での支援もいくらかあり、中学生の中にはJSL教室に毎日のように行くことになった生徒もいます。

高校1年生を終了して、日本の中学校編入を希望してきた生徒が、初めは中学校で年齢が超過で難しいと言われ、あとからは、中国で義務教育終了なら日

本の中学には入れないと言われ、希望が叶いませんでした。夜間中学はもっと早い手続きが必要で、来年4月からしか入れないということが分かりました。どんな法律や条例でこのように決められているのだろうかと疑問に思います。今は、はいずで、週2回約3時間の中学の数学、英語などの問題の復習とKICCの日本語教室で学んでいます。兵庫県の高校入試の外国人生徒にかかわる特別枠は3人ずつ5校15人しかありません。芦屋高校のオープンスクールに行き、過去問をもらい、勉強を始めていますが、今年は受験する人が多いので、本当に狭き門です。一般入試は、5教科あり、中学の内申点が半分ということで、ほぼ無理でしょうと県教委でも説明されました。私学も英語、数学、国語の3教科だからと電話してみましたが、試験も難しいし、入学後の支援体制がないといわれました。国際科があっても帰国子女と英語が主だから、ということでした。もちろん保護者の経済状況も「奨学金」を受けるといっても、課題があります。定時制高校も試験は5教科で、入学後に学習についていけないだろう、支援は難しいといわれました。日本語能力検定N1を取ってれば、と言われた生徒もいて、大人でも難しいことを知っているのかなと驚きました。こういう年代の子どもの教育権はどう保障するのか、と考えさせられます。ある神戸市の定時制高校に事情を説明すると、とにかく書類をそろえて応募してみしてほしいと言われ、いくらかほっとしています。今は学習を継続しながら、中国の中学校からの書類を待っているところです。

支援者の方は、支援に来てくださった方のロコミや、大学の先生方の協力、授業の一環としてスタートし、継続してくださっている方もいます。高校生も、先生方の声かけが大きいです。子どもとの関わりがおもしろい、といろいろ工夫してくださるのも、本当にありがたいことです。それでも、なかなか1対1の支援を続けていくのは厳しいので、支援者への呼びかけも継続していきたいところです。(小城 智子)

◆敬老会

9月は涼しい風が夏の暑さを追い出し、だんだん秋を感じる季節です。スタッフは敬老会の準備のため慌ただしく過ごしています。

ミスなく楽しく盛り上げる会にするため、少し前から会場の飾りつけの工作や書道を利用者さんに書いてもらったり、作ってもらったりしました。スタッフはプレゼントを買って包んだり、脳や体の運動になるゲームを考えたり、利用者さんの写真を撮ってカードを作ったりしました。もう敬老会の準備が完了、後は実行するのみにになりました。

当日、呼和ケアマネージャーのお祝いの挨拶の後に各利用者さんの一言のタイムがありました。ある高齢者は「これからも健康で子孫と居たい。」「ハナの会で仲間と食事をしたり、会話したり、楽しいところ。」「ここで脳トレや軽運動、ドミノやババ抜きをしたりなど、良い場所を提供してくれて感謝している。」等と話してくれました。各スタッフの祝福の言葉も述べました。

プレゼントコーナーでは、看護大の実習生の手作りカードを高齢者に渡しました。カードにそれぞれ自分の写真が貼ってあり、お祝いの言葉が書いてありました。高齢者がそれを見ると、明るく楽しい表情になりました。ハナの会からのプレゼントはくじ引きを行いました。他の人や自分が何を当たるのかと、とても気になる様子でした。楽しい敬老会でした。

あるベトナム人高齢者は「高齢者に敬老の日があることは幸せなことです。ここに来たら、自分が役に立たない惨めさがなく、大事にされている。」「食事やお茶を口元まで運んでくれる。もう言うことない。」などのコメントをいただきました。

私は明るく元気な高齢者が通ってくれることが嬉しく、働く上での良い動機になっています。やりがいがある仕事だと思っています。 (河原 蘭)

干支 Can chi



ベトナム語では干支のことを「Can chi (カンチー)」と言います。2023年は日本はうさぎ年ですが、ベトナムはねこ年です。ちなみに、チベット、タイ、ベラルーシでも「うさぎ」ではなく「ねこ」が十二支に入っているそうです。

ふたば国際プラザ

◆相互理解講座～世界の学校 日本の学校～

2022年11月19日(土)に「相互理解講座～世界の学校 日本の学校～」を開催しました。ゲストに中国人保護者の季穎さん、ベトナム人保護者の MAI THI THU PHUONG さん、ベルギーとイギリスの学校に通学されていたご経験のある ALT の WILD DOMINIC さんをお招きしました。

前半はパワーポイントを基に、ゲストの方々が経験された、世界と日本の間の学校・教育環境の差異や、日本に来て戸惑ったことなどを伺いました。内容は教科学習、生活指導、課外での活動など多岐に渡りました。日本は他国よりも学校内での教科学習の比重が小さく「厳しくない」こと、一方、塾などの私教育を利用しなければ勉学についていけないことが驚きであり、子育て上の困難だったと指摘されました。生活指導の面では、日本の教育環境規則は厳格で周囲と同じように行動しなければならない圧力が強く、これは外国ルーツがあるかないかにかかわらず、子どもの自由を拘束しているのではないかと提起されました。

後半は司会や会場からの質問に答えていただきました。各国の保護者の学校とのかかわりや、外国ルーツの子どもたちへの支援状況などが質問に上がりました。印象的だったことは、日本の学校では他国よりも保護者の関わりがより多く求められていることです。これらはお便りや提出書類の多さ、仕事と子育ての両立の困難さに相関しており、結果として、日本語や日本文化に馴染みがない保護者により多くの負荷と困難を与えていることがわかりました。その解消のために、入学前に学校の全体像を入学前に学ぶオリエンテーションを実施してほしいという要望がだされました。受講された皆様からは、色々な国の学校・教育事情を学ぶことができた、困り感を丁寧に掬い取れるようにしたいと感想をいただきました。また、ゲストと参加者の双方向型の講座を受講したいという声もありました。外国ルーツの子どもや保護者支援に強い関心が寄せられている

こと、また、何かをしたいという市民のパワーを強く感じました。

講座を通して、私自身は想像力が求められていると感じました。日本の支援制度は申請主義です。しかし、「何か困ったら相談があるだろう」という姿勢では、色々な困りごとをこぼれ落としてしまっていることを実感しました。子どもや保護者の社会的背景、一人ひとりの生に想像を馳せ、行動していくことが困りごとの軽減、子どもたちの豊かな成長につながるのだと思いました。貴重なお時間をいただき深謝いたします。(櫻木 晴日)

◆まちの文化祭

ふたば学舎の文化祭『まちの文化祭』が11月27日に行われ、KFC 新長田帰国者交流会はステージプログラムに出演し、広場おどりを2曲披露しました。曲目は「走天涯」と「九月九的酒」を選び、事前の交流会で練習して本番に臨みました。会場には観客がたくさんおり、緊張したという声も聞かれましたが、15分間の発表を皆で精一杯行い、終わった後には拍手を頂きました。今後もできるだけ交流会の地域社会に向けた発信の機会を作っていきたいと思います。

ウクライナ避難民支援の現状

ロシアによるウクライナへの軍事進攻が開始されてから10ヶ月が過ぎようとしています。ロシアの攻撃は終わることなく今もなお続いています。

つらい状況の中、現在神戸市内には約80名の避難民の方が生活されています。

来日当初は大きな環境の変化と心労により疲れた表情を見せていた方々も、最近ではやわらかい表情に変わってきたように感じます。また日本語を学習し始めてしばらく経つ方などは、日本語で話しかけようとしてくれたりと、うれしい変化も見え始めています。

11月には神戸市内の大学生とともに、ウクライナの伝統的な人形「モタンカ人形」を作るワークショップを大学祭で行いました。これには多くの方が参加され、ウクライナの伝統を伝えられる喜びや日本人との交流を楽しんでいたようでした。これをきっかけにふたば国際プラザでは、地域の方達との交流の場として、ウクライナの料理教室や文化を広げる機会を提供できればと考え、今後取り組んでいく予定です。

日本での生活に慣れてきているように見える一方で、体の不調を訴える人も少なくありません。元々持病を抱えている人もいれば、新しい環境に慣れようと努力し続けてきた結果、疲れが出てしまった方もいて症状は様々です。病院を受診するにも問診表の記入や病状の説明など本人たちだけでは難しいことも多く、病院へ同行することも多くなりました。そのため、今後のもう一つの取り組みとして、住所や氏名、病状などを事前に準備していただけるよう、問診表に変わるような書類を作成していこうと考えています。

子どもの学習環境についても課題は多いですが、学習支援の担当スタッフが一人ひとり丁寧に聞き取りを行い、現在の学習状況や今後の進学希望などを確認しています。将来への展望が難しい状況ではあ

りますが、何とか希望の進路に向かっていけるようサポートできればと考えています。

現在受ける相談の中で一番多い内容は就労に関することです。

就労については来日してすぐの頃から要望が多く、

また受け入れを表明してくださる企業も少なくなかったのですが、実際に仕事を始められる方は多くありませんでした。

そして現在、生活も落ち着き日本語にも慣れてきたということもあり、再び就労への意欲が高まっているように感じます。日本での就職に関して、仕事の情報だけでなく就職に必要な知識や書類作成の支援などを行う就職オリエンテーションを企画し、毎月1回のペースで開催しています。

また数日中には企業との面談も予定しており、一人でも多くの方の就労につながればと思っています。

先日キーウ出身の方がウクライナではもう雪が降っているんだと自宅近くの森の写真を見せてくれました。キーウにも攻撃により道路など破壊された跡がありますが、本来は美しい建物や教会などが立ち並ぶ街なので、ぜひいつかこの美しい街並みを見に来てほしいと言ってくれました。

1日も早くウクライナに平和が戻り、皆さんが安心して暮らせる日々が戻ることを願いながら、今後も日本での生活を支援して参りたいと思っています。

(松葉 咲子)



KFC

第2回

就職オリエンテーション

日時：12月10日（土）12時30分～14時
場所：ふたば国際プラザ



神戸市東灘区二ツ木7-1-18
ふたば国際プラザ

目的

日本での就職を考えている方へ、なにも準備していない方についてお話しします。

紹介の進め方

就職オリエンテーションに参加された方から就職に、仕事の紹介を進めていきます。そして、なにをどう風に準備していかなければ、それぞれの就職先に合わせて、個別のワークショップも定期的に行っています。就職希望者は、かならず就職オリエンテーションを受講してください。

求人の実情

これまで、どのような求人があったのか、そして就職できた人はいらぬか。これまでに神戸県工会事務所を通じて問い合わせのあった求人、職業紹介所（ワーク）で探し出してもらった求人を案内し、実情を把握してもらいます。

就職に必要なこと・能力

日本語ができれば就職はたくさんあります。しかし、一般一歩で日本語能力は身につけません。それでは、どうすればいいの？就職にあたって、優先して準備すべきことをお話しします。

就職活動に必要なもの

- ① 就労ビザ
- ② 履歴書
- ③ 写真
- ④ 面接カード
- ⑤ マイナンバーカード
- ⑥ マイナンバー通知書

※③は必ずしも必要ではありません。

kfc@social-b.net



078-747-0280

(火～土曜日 10:00-19:00)

第2回就職オリエンテーション

今後の予定

■就学前の子どものプレスクール事業

1月7日～3月25日(土) 10:30～12:00(全12回)

■ふたば国際プラザ

○いろいろな国のお正月あそび

1月9日(月・祝) 13:00～15:00

○第37回 ヒューマンシネマ上映会

1月27日(金) 18:00～20:15

「インビクタス/負けざる者たち *Invictus*

(2009年 アメリカ映画 132分 字幕版)」